

# 鳥取大学

## 知の発展的循環プロセスの構築 による地域拠点整備事業

連携自治体 鳥取県・鳥取市・米子市・日南町・琴浦町・南部町・大山町・江府町

### 地(知)の拠点として

全国に見ても人口減少、少子高齢化の進攻を経験し、あわせて産業空洞化も深刻である鳥取県内の自治体との連携に基づき、地域社会のしくみの革新と人材育成を大学の知を活用して展開していきます。その際、従来の豊富な実績を踏まえつつ、目下の課題解決にとどまらず、自立的・継続的な改善への結実を目標として学生教育や研究活動に外部人材が幅広く参画する機会を増やし、連携の質を向上させます。これと並行して、地域志向型人間力教育プログラムの開発による「地(知)の好奇心」に満ちた人材の養成および大学における教育、研究、社会貢献の諸領域での活動を密接に結びつけ互いに影響しあえる「知の発展的循環プロセス」を構築します。

### 教育 - 地域を知り、実践する 学びで「地的好奇心に満ちた 活力・実践力」ある人材 養成

○教育カリキュラムの改革  
・地域ならびに日本を学ぶ全学共通教育プログラム：鳥取・日本を学ぶ科目を既存のものと合わせて全学生が履修可能となるよう、新

たに 12 科目を開設し充実させます。

- ・地域づくり実践科目の教育プログラム：「地域づくり実践科目」を新たに開設し、地域の課題を持ち込む仕組みを構築し、自治体職員など現場の人々との接点をもちつつ授業を実施していきます。
- ・地域看護等人材育成プログラム：地域基盤型の教育の充実と教育実践の拠点となる場を設置し、その成果を広めていきます。

○教材の開発本事業の研究  
・社会貢献の成果に基づいて、開設した科目ごとに、講義・授業の大まかな学習計画、授業内容、使用資料などをまとめた冊子を作成し、副読本的に活用できるようにし、可能なものは将来の教科書としての出版を目指します。

### 研究 - 学部横断的なテーマに 基づいた「しくみのイノベー ション」の創出

- 地域志向型研究の全学的展開 8 テーマの研究プロジェクトを立ち上げ、事業終了時まで自治体との共同研究による課題解決策や課題解決支援手法の開発を行い、学術論文、社会での実践事例を量産して行きます。
- 研究ステップアップ支援システムの確立

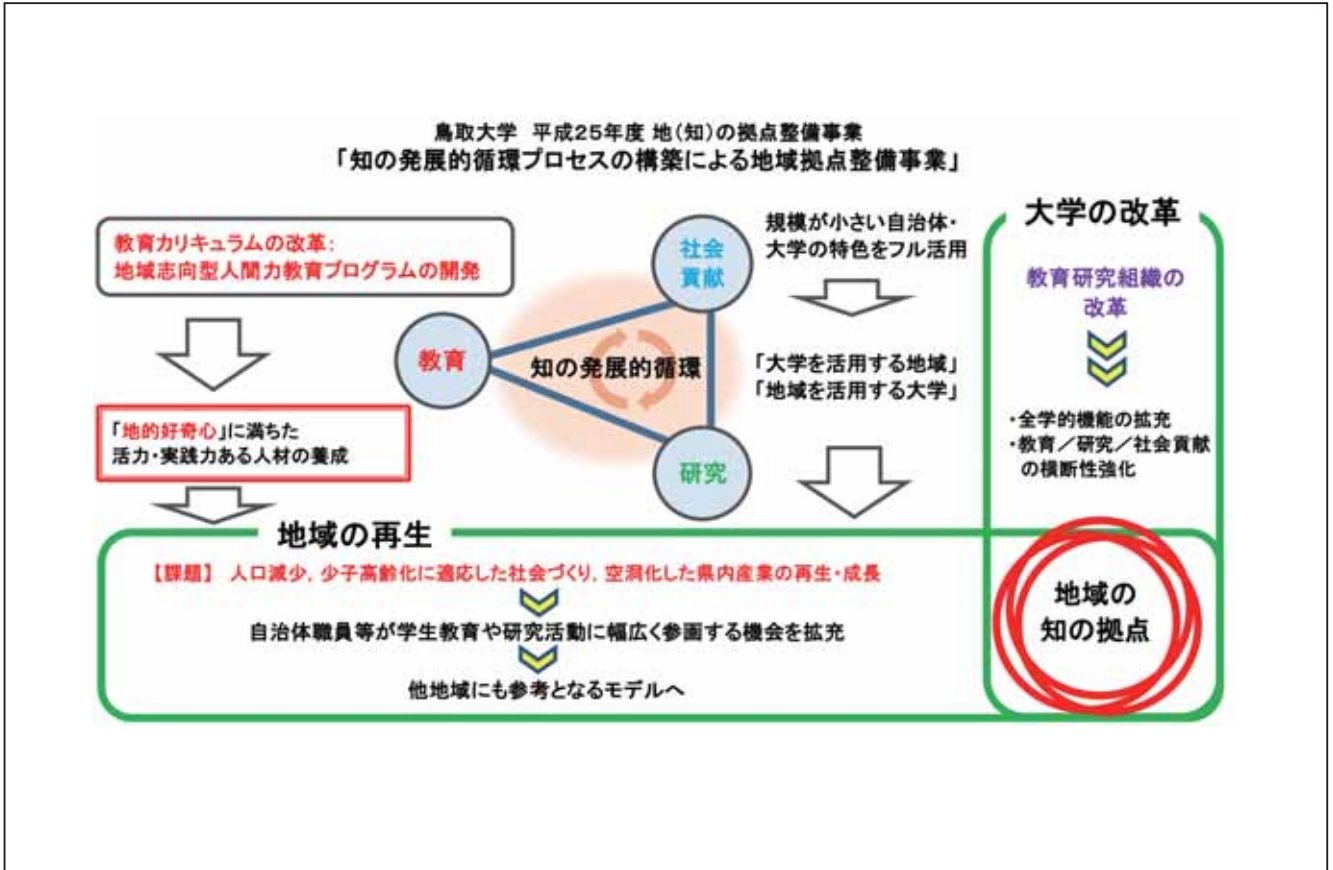
学生が教育の一環で地域課題の研究を受け入れる方式を取り入れた「地域づくり実践科目」を新設します。その運用の中で、予備的・試行型の研究により発展が見込めるテーマについては、本学の産学・地域連携推進機構のコーディネータにつなぎ、実践・展開型研究へのステップアップにつなげるという支援システムを確立していきます。

### 社会貢献 - 大学と地域の融合 で社会「交研」(交わり互い に深く究める)

○知的好奇心活性化フォーラム自治体や民間企業、学生が気軽に集え知的な対話を楽しめる場を作ります。基本的には、話題提供(時事問題、持ち込み課題、研究材料など)を踏まえたワークショップ的な運営となります。また、研究課題として展開の見込みがあるテーマについては、研究への取り組みを積極的行います。

○外部サポートスタッフ育成・派遣システム

事業実施3年目をめどに自治体や民間企業OBなどを地域課題への企画・対応力をもつ人材の登録者を募り、教材・OJTにて育成するとともに、最終年度までに学生実習などの現場に送り出す運用を開始します。



#### ○地域の課題

鳥取県は、基幹産業である製造業を中心に、拠点の海外移転などにより生産ピラミッドが崩壊する状況に陥っています。農林業においては高齢化が進み、また TPP の推進などによってさらに深刻になると考えられ、県内産業の空洞化が懸念されています。

#### ○課題解決のための連携自治体との協力体制

自治体から大学に派遣されている職員とともに、自治体の声を反映させながら本事業の企画や運営を行っています。また、地域志向型授業への参加を通じた学生の教育支援に取り組んでまいります。



鳥取県  
知事  
**平井 伸治**

鳥取大学と本県は、地域医療、農業をはじめとした産業振興等様々な課題の解決に、ともに取り組んだ歴史を踏まえ、平成 25 年 1 月に包括連携協定を締結しました。大学 COC 事業採択を機に、人口減少、少子高齢化や国土強靱化等の地域課題解決に、地域の知の拠点として鳥取大学の教職員、学生の皆さんに活躍していただくことを期待し、県としても協力・連携を深めながら、とっとうの未来づくりにチャレンジしてまいります。



社会開発システム工学科 3 年生  
**青木 彩華**

大学の授業を通して地域について学び、交流できるということは、直接知る機会の少ない私たちにとって、鳥取という地の理解を深めるチャンスが増えたと感じます。地域を知ること、勉強や研究がより身近なものになります。今後、各地で深刻化していく課題を抱えるこの地を直に知ることが出来るので、私自身が地域の声に寄り添い、何が必要で、何が出来るのかを考え、行動できるような意識を持ちたいと思います。

# 島根大学

## 課題解決型教育（PBL）による 地域協創型人材養成

連携自治体 島根県・松江市・出雲市・大田市・雲南市・安来市

### 地(知)の拠点として

島根県の持つ産業空洞化、市街地空洞化、地域医療危機、過疎・高齢化等の地域課題に対して、次の取組を実施します。

- ①全学部・研究科において学部を超えた「地域基盤型教育」と「地域課題解決型教育・研究」を強化します。
- ②自治体等との「しまねCOC事業推進協議会」、「市民支援ネットワーク」及び「学生ネットワーク」により、市民・学生の声を汲み上げながら活動を推進します。
- ③地域との協働で「課題解決型教育」を進めるための「地域課題学習支援センター」を設置し、学習支援システムとコンテンツの作成・配信を行います。

これらの取組により、「地域協創型人材（地域に貢献する文化人、医療人、産業人）」を育成することを目的としています。

### 教育 - 地域を知り、地域に入り、 地域とともに成長する地域協創型人材の養成

従来から実施している地域社会体験プログラム等の「地域基盤型教育」と地域医療実習や実践教育プロジェクト等の「地域課題解決型教育」を基礎として、地域協創型人材を育成するため、次の取組を実施します。

- ①学部1・2年では、社会体験学

習等の「ベースストーン科目」を選択必修とすることで、地域との触れ合いによる学習動機付けの強化と地域志向の向上を図ります。

- ②学部3・4年では、地域関連の専門教育科目群を「キャップストーン科目」として副専攻化し、地域との連携により課題解決型専門学習の強化を図ります。
- ③大学院では、共通科目として「専門的・学際的地域活性化副専攻プログラム」を導入し、地域との協働から課題解決能力の強化を図ります。
- ④教育能力向上の実践的方法として上記教育・研究への取組を促進し、教員の地域志向の向上を図ります。
- ⑤入学前から地域貢献を強く志向する受験生を受け入れる「地域貢献人材育成入試」を実施します。

### 研究 - 地域活性化マネジメント ユニットによる地域課題解決型 研究の推進

地域貢献に繋がるプロジェクトを強化するため平成24年度に開設した6つのプロジェクトセンターを中心に、「地域活性化マネジメントユニット」を設置します。

「地域活性化マネジメントユニット」では、地域との協働で地域課題の解決に密着した研究を行うとともに、そこに学生が参加することで課題解決型の教育も実施します。

### ■地域課題解決型研究の主なテーマ

- ①農林水産業の六次産業化
- ②超高齢化社会の包括的医療・介護システムモデルの構築
- ③地域資源を活かしたナノテク活用ものづくり
- ④松江発国際プログラミング言語Rubyによるソフト開発・普及
- ⑤地域の豊かな文化資源を掘り起こし日本の原点を世界に発信
- ⑥自然・歴史・防災の見える化

### 社会貢献-地域とともに活動し、 地域から学ぶ社会貢献の推進

島根大学は、「地域課題解決型教育・研究」を通じて、地域とともに活動し地域から学ぶ社会貢献を進めるため、次の取組を実施します。

- ①地域活性化や中心市街地活性化等に関する学生の社会貢献活動を積極的に推進します。
- ②地域の生涯学習に貢献するため「地域学習支援ITシステム」を構築し、地域活性化に資する地域指向のコンテンツを作成・eラーニングで配信します。
- ③学生・社会人の入学前・在学・卒後を通じた継続的支援を行うための「エンロールメント・マネジメントシステム」を構築します。
- ④地域の課題解決に迅速に取組むため、地域課題をone stopで「地域活性化マネジメントユニット」が受け、速やかに社会貢献に繋げる機能を構築します。



島根県は、産業空洞化、市街地空洞化、地域医療危機、過疎・高齢化等のさまざまな地域課題を抱えています。

島根大学は、従来から地域の自治体との間で、包括的連携協力に係る協定を締結し、これらの地域課題に取り組んできたところですが、COC事業の実施にあたり、新たに本学と連携する自治体、産業界、NPO法人等で構成する「しまねCOC事業推進協議会」を立ち上げ協力体制を強化しました。

このしまねCOC事業推進協議会において、地域の声を広く汲み上げながら、COC事業に係る個別事業の協議、取りまとめ、進捗状況のチェック、事後評価等を連携する自治体等と協力しながら行っています。



島根県  
政策企画局長  
藤原 孝行

島根大学が本事業で取り組まれる地域課題解決型教育・研究を通して、学生が実際に地域に出て活動してもらうことで、地域の良さをあらためて実感し、地域への愛着をより深めてもらうことになり、受け入れる地域それぞれの活性化にもつながることを期待しています。

島根大学のCOC事業が地域の課題解決につながり、地域に貢献する人材が育っていくよう、島根県としても協力していきたいと考えています。



生物資源科学部  
教授  
野中 資博

島根大学は、「地域に根ざし、地域社会から世界に発信する個性輝く大学」を目指すという大学憲章のもと、島根にあるべき地(知)の拠点化をさらに進め、地域課題の解決のために学生・教職員と地域社会の協働のもと、地域が必要とする学生を育み、地域社会に必要とされる大学づくりを推進します。本COC事業を契機として、地域協創型人材(地域に貢献する文化人、医療人、産業人等)の継続的な育成が期待されます。

# 吉備国際大学

## だれもが役割のある活きいきした地域の創成

連携自治体 兵庫県・高梁市・南あわじ市

### 地(知)の拠点として

本学は「岡山県高梁市」と「兵庫県南あわじ市」という若年人口の減少や社会的弱者の社会参加の困難性、観光事業の不振など共通の課題を持つ地域に立地しています。これらの自治体にまたがる本学は各キャンパス固有の教育・研究の特徴を活かすことで、単独ではなしえない「シナジー効果」を生むことによって、地域の高齢者、障がいを持つ人達が活きいきと生活できるように援助するとともに、子育て支援、青少年の心理ケアなどの活動を行う中で、思いやりにあふれ人々に共感できる能力をもち、さらに農業と農村社会におかれた厳しい状況を克服し、新たな農村地域の創成を担う優秀な人材を育成することを目指します。

### 教育 - 「地域学概論」と「地域貢献ボランティア」の新設

これまで学科単位で取り組んでいた地域貢献活動を、大学全体の取り組みに発展させていきます。4年後の平成29年度より、全学部的一般教養科目の中に「地域学概論」と「地域貢献ボランティア」を新設する予定です。「地域学概

論」では、これまで学科単位で取り組んできた地域貢献活動の内容を学生に紹介し、地域社会の問題点や課題を理解した上で、大学として何ができるかを考える機会として授業を行います。そして、「地域貢献ボランティア」では、「地域学概論」で学んだことを学生自身で実践する科目としています。この科目では、学生が課題ごとにグループに分かれ、その課題解決に向け、地域に出かけてボランティア活動を行うことで地域に貢献するスキルを養います。これらの科目は、学生が社会人となった時に積極的に地域貢献を行おうとする意欲の醸成を目的としています。平成29年度までは、現在の「吉備から世界へ」及び「キャリア開発Ⅱ」を活用する予定です。

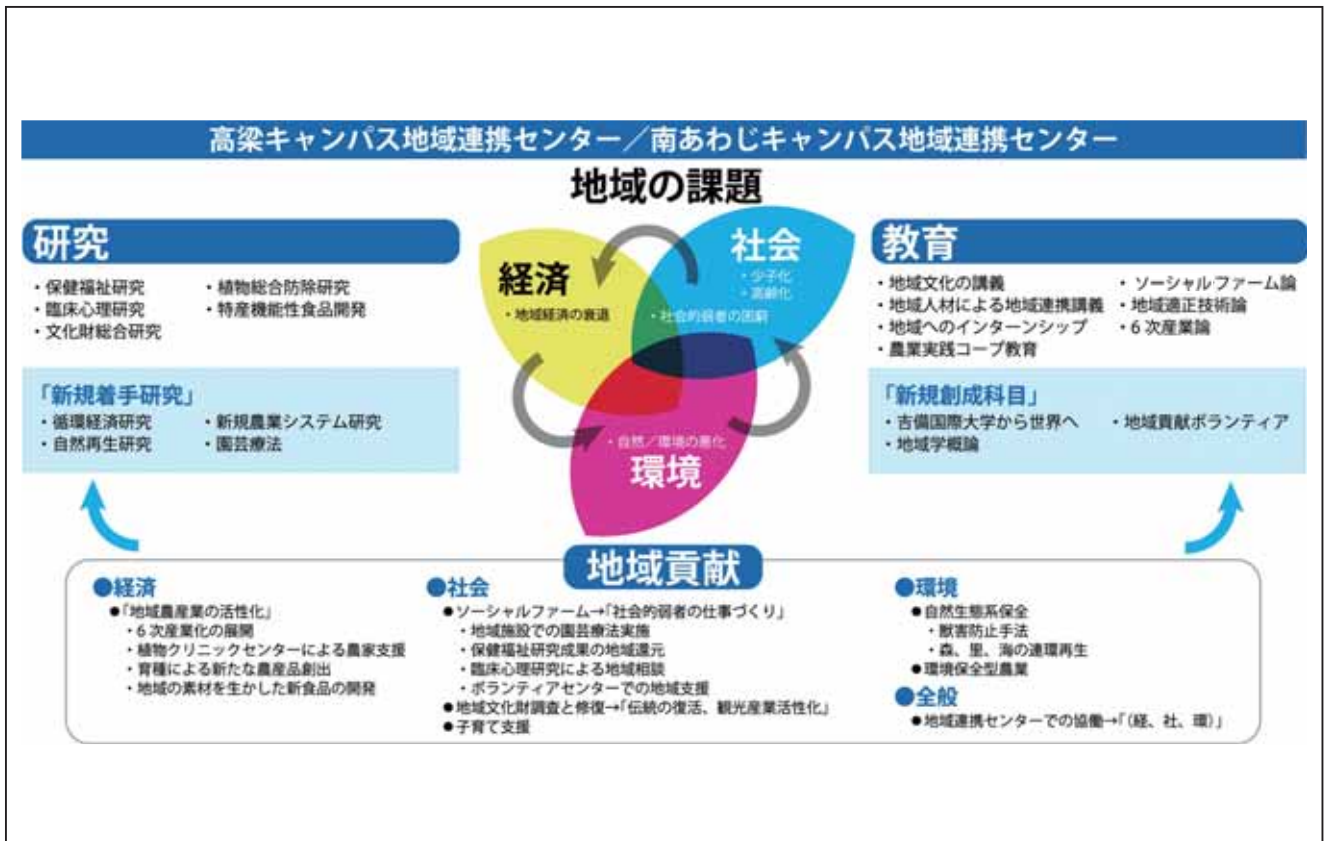
### 研究 - 園芸療法と農作業の効果判定

高梁キャンパスの保健医療福祉学部と南あわじキャンパスの地域創成農学部との連携で「園芸療法」研究会を立ち上げています。園芸は多くの医療機関や介護保健施設で用いられている身近な作業です。園芸療法の効果を評価するための評価尺度選定、簡潔にQOLを評価するために疾患特有の評価尺度を開発します。また、農作業従事者に対して、実施されている要介護状態予防のデータ収集と効

果判定の検証を行い、身体的な効果だけではなく、農作業による予防効果を調査します。そして、農業や園芸で体を動かすことが、高齢者の健康維持にどのような影響を及ぼすかについての調査研究を始めています。

### 社会貢献 - 「ワークシェアリング」、「子育て支援」の活動と「ランチタイム講座」

高梁キャンパスでは、「地域で働きたい」という希望をもつ高梁市内の障がい者の方々に働く機会を提供する「吉備国際大学ワークシェアリング就労支援プロジェクト」や子育て支援における「親子・学生交流事業」、「学びの提供・子育て支援関係者の研修事業」を実施しています。また、南あわじキャンパスにおいても、年6回の「ランチタイム講座」を開催しており、地域創成農学部各教員が専門分野の話題を中心に講義を行っています。さらに、南あわじ市を中心とした病虫害対策において、「地域の課題」を軽減するために、地元の関係機関と連携して、吉備国際大学地域創成農学部が持っている知的財産を還元することを目的とした「地元農産物と植物保護法に関するセミナー」も開催しています。



高梁市ならびに高梁市商工会議所との連携協力体制に基づき、街づくり、人材育成、福祉・教育・文化・スポーツ、産業振興の分野で相互協力し、地域密着型総合大学として地域社会と学術の中心となり、社会に貢献しうる人材を育成する中で本学が得意とする社会経済、医療、社会福祉、環境、文化財保存・修復、児童・生徒のカウンセリングなどの教育分野の英知を地域に還元していきます。南あわじキャンパスでは、兵庫県淡路農業技術センターと、南淡路農業改良普及センターと地域創成農学部が協働して活動していくという協定を兵庫県、南あわじ市と締結しており、連携を強めていきます。



南あわじ市  
市長  
**中田 勝久**

南あわじ市は、淡路島たまねぎやレタス等、わが国有数の農業生産地ですが、農業者の高齢化や後継者不足など多くの課題もあります。吉備国際大学地域創成農学部では、南あわじ市という大産地をフィールドにし、地域と大学が融合・一体化して地域課題の解決策を見出していく積極的な取組が行われております。この取組が農漁業など第1次産業の課題解決を通じた地方再生・活性化に繋がるものと確信しております。



心理学部 子ども発達教育学科 2年次生  
**野口原 千絵**

私が所属する学科では、将来、保育士や幼稚園教諭・小学校教諭を目指して多くの学生が学んでいます。今年度からは、「地(知)の拠点整備事業」の取り組みの中で、地域の幼稚園・保育園・子育て家庭等との交流活動が授業の一環として行われていますが、子育て支援の意義や具体的な取り組み方法等について、実践的に学ぶことができる大変有意義な活動です。私たちにこのような学習の機会を与えていただき感謝申し上げます。

# 広島大学

## 平和共存社会を育む

## ひろしまイニシアティブ拠点

連携自治体 広島県・広島市・東広島市

### 地(知)の拠点として

この事業では、広島地域の共通の課題である「ひろしまの平和発信」、「条件不利地域対策」、「障がい者支援」を重点課題として、これらの解決に繋がる新たな教育プログラム「ひろしまイニシアティブ」を全学生対象に行います。地域の課題解決に向けて、自治体、NPO、企業、教職員、学生等で構成する「ひろしまイニシアティブコンソーシアム」を創設し、地域ニーズの抽出・検討から、現場体験を基本とする教育カリキュラムや地域志向型の共同研究の実施、地域社会への還元に至るまで、新しい形の産官学・地域連携により、この事業を推進します。このような活動により、「ひろしまを知り、理解し、発信することのできる人材」を地域とともに育成します。

### 教育 - 全学生対象の地域に向き合う現場体験実習

「ひろしまの平和発信」、「条件不利地域対策」、「障がい者支援」の3つの重点課題解決のきっかけとなる現場体験実習を、全学部1年生が受講する「教養ゼミ」や「平和科目」といった既存の科目に組み込みます。さらに2年生以

降の専門課程には、地域に根ざした専門科目群として「ひろしまイニシアティブ特別科目」を新たに開設します。その内容は、例えば「ひろしまの平和発信」では広島平和記念資料館でのガイド活動支援、「条件不利地域対策」では中山間地域における農業体験、「障がい者支援」では障がい者の修学支援の体験学習などですが、常に変化する地域ニーズに対応するため、カリキュラムは固定せず、「ひろしまイニシアティブコンソーシアム」で検討を繰り返します。このように、学生が常に変化する地域の重点課題解決に向けて自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、解決する機会を提供することで、「ひろしまを知り、理解し、発信する人材」を地域と共に育成していきます。

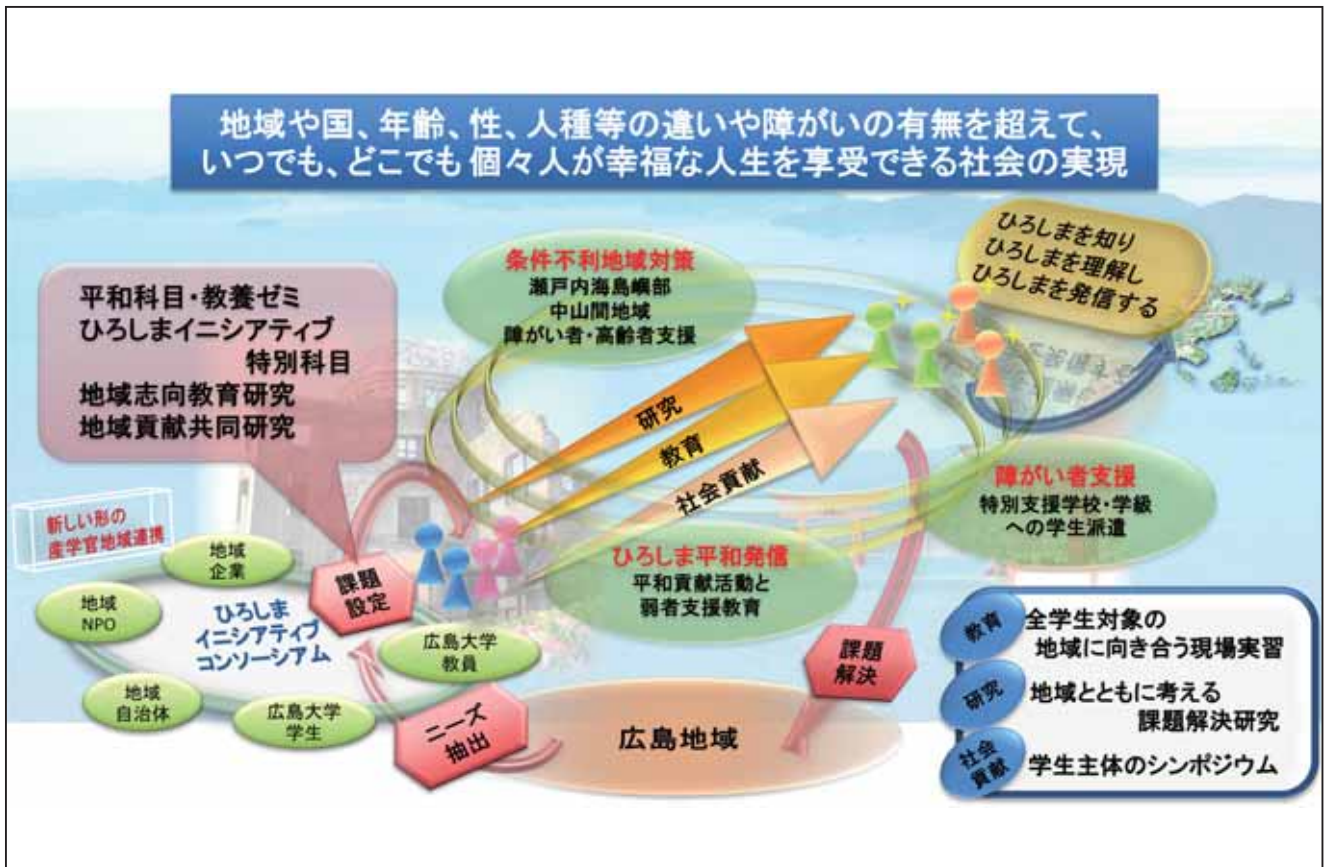
### 研究 - 地域とともに考える課題解決研究

広島大学ではこれまでに、地域が直面する課題を地域住民や地域団体から提案してもらい、大学の持つ専門的な知識・技術や人材を活用して課題解決研究を行い、その成果を地域に還元する「広島大学地域連携推進事業」を行っています。この活動をさらに発展させて、「ひろしまの平和発信」、「条件不利地域対策」、「障がい者支援」

に焦点をあて、課題の選定や研究者とのマッチングから評価までを学生や自治体と共に「ひろしまイニシアティブコンソーシアム」で行う「地域志向教育研究」を実施します。さらに、コンソーシアムで高い評価を受けた研究は、地域課題解決の加速化に向けて「地域貢献共同研究」として継続的に支援します。

### 社会貢献 - 学生主体のシンポジウムとプロジェクト別ワークショップ

この事業で得られた成果は地域に広く発信していきます。この活動の中心となるのが、先進取り組み事例紹介や成果発表などを、重点課題領域のステークホルダーや学生が行う「ひろしまイニシアティブシンポジウム」です。このシンポジウムは、現場体験実習や研究活動に参加した学生が計画から開催までを主導するかたちで毎年開催します。さらに、実際に活動を実施した自治体や地域住民とともに事業成果について議論するプロジェクト別ワークショップを随時開催します。このように、成果報告や成果の評価・検討を学生が直接地域とともに行う場を設けることで、課題解決に向けたさらなる活動や地域志向の学生の育成につなげていきます。



広島地域は、世界最初の原子爆弾の被害からの目覚ましい復興を遂げた地域として、平和構築活動や平和への思いを世界へ発信することを課題としています。同時に、瀬戸内海島嶼部や中山間部の過疎化、高齢化が進んでいる地域（条件不利地域）における活力低下や障がい者支援体制構築の遅れなどの社会課題に先行して直面している課題先進地域でもあります。そこで、本地域の重点課題として、「ひろしまの平和発信」、「条件不利地域対策」、「障がい者支援」を設定し、その解決に向けて、具体的課題の抽出から社会への還元に至るまでを自治体や企業と共に推進する「ひろしまイニシアティブコンソーシアム」を創設します。



東広島市  
副市長  
榎原晃二

広島大学のある東広島市では、人づくり、安心づくり、快適づくり、活力づくり等、まちづくりの様々な分野で複雑化した課題が山積しており、多くの市民が将来のまちづくり施策に期待を寄せています。こうした課題解決のために、これまで大学の知財等との連携による取組を進めて参りましたが、COC事業により更なる地域課題解決が図られ、広島大学が地域とともに歩む大学として末永く発展されることを祈っております。



教育学部 特別支援教育教員養成コース  
4年生  
平森千尋

私は、4年間の広島大学での学びを通じて、大学は地域との強い結びつきが求められていることを痛感しました。大学で地域社会との関わりに視点を置いた新たな学びが始まることに大きな期待を寄せています。この新たな取り組みに学生が参加することは、地域の「なまの声」に触れることを通して、専門の学びと結びつけながら地域や社会の諸課題に目を向け、自分に何ができるかを具体的に考えるきっかけになると思います。

# 広島修道大学

## イノベーション・ブリッジによる ひろしま未来協創プロジェクト

連携自治体 広島県・広島市・廿日市市・北広島町

### 地(知)の拠点として

ひろしま未来協創プロジェクト（ひろみらプロジェクト）は、新しく設置する「ひろしま未来協創センター（ひろみらセンター）」を中心に「教育」「研究」「社会貢献」の3領域で進められます。この3領域を好循環させながら“地域イノベーション人材”を輩出し、地域と協働で、地域の活性化につながる持続的な仕組みを創ることが目標です。

このプロジェクトでは「現地で発掘し磨いて、新しい価値を創出して広く発信」することを「イノベーション」、「つながり」を「ブリッジ」と捉えています。イノベーション・ブリッジにより広島が持続可能な魅力あるローカルであり続けるように、本学は地(知)の拠点として教育・研究・社会貢献の領域を機能させます。

### 教育 - 地域の教育力と大学の教育力がつながる「地域イノベーションコース」

「教育」領域では、全学的な教育プログラムとして「地域イノベーションコース」を新設し、広島未来を描き、創造できるイノベーション人材を育成します。このコースでは、ソーシャル・イノベーション（社会的課題を新たな発想・手法により解決し、新しい価値を創造すること）やコミュニティ・ビジネス（住民主体による

地域課題解決のためのビジネスとしての取り組み）のマインドを醸成し、具現化するための知識と技法、態度を修得します。

このコースでめざす人材像は「専門性を持って、持続可能なコミュニティの発展に能動的に寄与できる人」「地域課題から、新しい価値の創造ができる人」です。

地域イノベーションコースには、地域課題に気づく視点、気づいた地域課題を協働で解決しようとする態度、地域課題への新しい価値を創出できる力等を育成できる科目を導入します。地域課題に取り組む実践的なプログラムによって、今、社会が求める専門性に裏打ちされた「問題解決力」や「発信力」を身につけます。

### 研究 - 地域の知と大学の知が つながる「ひろみらシンク タンク」

「研究」領域では、自治体や産業界、NPO等と協力して、知の拠点として広島の未来を考え、方向性を提案していきます。具体的には、地域の課題解決やビジョン策定に向けて、提案やコンサルティング、共同で調査研究をするために、「ひろみらシンクタンク」を開設します。このシンクタンクにおいて、地域からのニーズと本学教員の持つシーズをつなげていきます。

シンクタンクのメンバーが地域

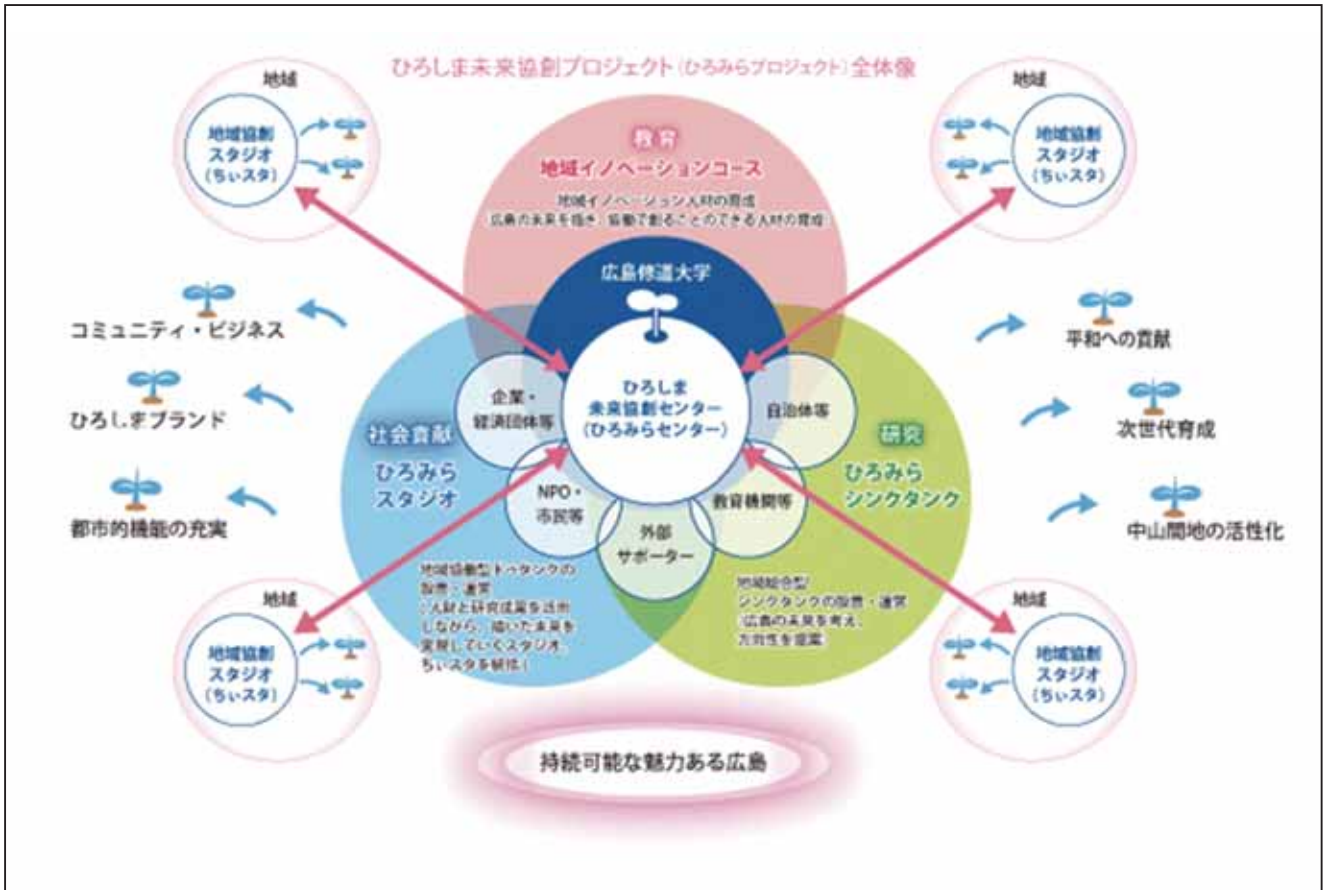
課題解決や地域活性化に関する研究に積極的に取り組むことを推奨するため、「ひろみら研究領域」も新設します。この研究領域における成果は、『ひろみら論集』として公刊し、その成果を地域に広く発信します

### 社会貢献 - 現地に「ちいスタ」 を開設し、「ちいスタ」でつ ながる「ひろみらスタジオ」

「社会貢献」の領域では、地域の多様なステークホルダーとの連携・協働を促し、現地での活動や地域志向の教育・研究を推進します。現地での学びや研究を支援するために、複数の「地域協創スタジオ（ちいスタ）」を設置する計画です。ちいスタという活動拠点において、地域と協働で、地域イノベーションのための教育や研究を重ねることで地域資源を発掘し、地域の魅力づくりに貢献します。

学内には、ちいスタを地域志向の社会貢献を推進する拠点「ひろみらスタジオ」を新設します。

これらの取組により、単に研究成果を地域に発信という一方向のものではなく、人材と研究成果を地域と協働で活用しながら、描いた未来を実現していくという地域協働型ドットタンクを目指します。



広島県は「ひろしま未来チャレンジビジョン」の実現に取り組んでいます。広島市は「世界に誇れる『まち』の実現に向けて」に沿って、事業を展開しています。両者に共通の課題として掲げられているのが、まちの持続可能性や魅力づくりの創出とそれを当事者として主体的に担う人材の育成、人材の継続的確保です。地域の維持や発展のため、多様な世代、多様なステークホルダーとともに、地域資源への新しい価値を創出し、未来を創る人材を持続的に育成できる仕組みを構築することが、連携自治体と本学で協働して取り組むべき課題になります。広島県、広島市とともに隣接する廿日市市、北広島町とも連携事業を行います。



広島県地域政策局  
過疎地域振興課長  
**城田 俊彦**

本県の中山間地域は、少子・高齢化や若年層の流出などにより、地域の活力が減少しつつあります。そうした中、本事業で設置される「ひろしま未来協創センター」では、地域の未来を担う人材の育成、「地域協創スタジオ」を活用した地域課題の発掘と解決、地域資源の魅力発信など、地域の活性化に向けて様々な取組が予定されており、県としても、連携・協力しながら取組を進めていきたいと考えています。



人間環境学部 3年  
**中村 結花**

地域産業・人口減少・高齢化など、地域の課題に対し、ソーシャルデザインの考え方でアプローチしています。大学生ならではの創造的な解決策の提案を目指して、地元の方々と、ワークショップやフィールドワークを行っています。現地で、現地の方と共に活動することが、多角的に課題へ取り組むことにつながっている気がします。大学生が地域課題に取り組むことで、より多くの若い世代の人が興味を持つことを期待しています。